

平成30年度 第2回 碧南市介護保険運営協議会会議録

1 日時

平成31年3月12日（火） 午後1時30分～午後2時40分

2 場所

碧南市役所 2階 談話室1・2

3 出席者

(1) 委員 禰宜田知司、河原厚司、大田康博、堀尾静、水野博史、下村美幸、
沢井智美、齋藤健、永坂幸子、藤田敏江、中山修、佐藤洋一、
片山一也、磯貝靖子、高松好美、磯貝厚子、伊藤久美子、井上卓、小林
清彦

(計19名)

(2) 事務局職員 健康推進部長 杉浦秀司、高齢介護課長 山田昌宏
健康課長 齋藤雅人
高齢介護課課長補佐 杉浦洋子、高齢介護課高齢福祉係長 小林圭介、
高齢介護課介護保険係長 石川 真佐紀
健康課成人保険係長 羽佐田 美和子、高齢介護課主事 久保賢起
高齢介護課主事 平野佑佳（計9名）

4 傍聴者

0人

5 議題

- (1) 保険者機能強化推進交付金について
- (2) 第8期碧南市高齢者ほっとプラン策定スケジュール（案）について
- (3) その他

6 議事録

事務局：あいさつ

会長：あいさつ

事務局：議題(1)の説明

A委員：碧南市の順位は県内では上位であるが、全国ではどれくらいの順位であるのか。

事務局：まだ全国集計は出されていない。

A博委員：得点の評価者は誰か。自己評価なのか。

事務局：自己評価である。しかし実績を裏付ける資料等の提出が義務付けられており、碧南市もきちんと提出している。具体的に言うと、碧南市は愛知県内54市町村中4番目の得点となっている。

B委員：資料1の2ページ目(2)－①が0点となっているのはどうしてか。

事務局：居宅介護支援事業所に関する業務は今年度から市の管轄となった。そのため独自の方針がまだなく、県の運用を流用している。だから0点となっている。

B委員：ケアマネジャーに対する、事例検討会や研修はあるのか。

事務局：今年度は2回の事例検討会を実施した。

A委員：資料1の4ページ、(7)に生活支援コーディネーターとあるが碧南市には何名のコーディネーターがいるのか。

事務局：全部で12名いる。行政区ごとに2名の配置となっている。

C委員：この交付金は何年続いているのか。

事務局：今回が初めてのものである。

C委員：Ⅲ介護保険運営の安定化に資する施策の推進の(2)介護人材の確保が0点

である。重要な課題であると思うが、どうして0点なのか。

事務局：介護人材の不足は市としても重大な問題と認識している。今回の評価で明らかになった点数の悪い部分については、市としてもすぐに改善していくように努める。

事務局：議題(2)の説明

D委員：要介護認定者の回答率が悪いことが前回の課題であったと思う。次回はどのようにしていこうと考えているのか。サービス期間連絡協議会で協力を呼びかけるのか。

事務局：サービス機関連絡協議会の場でお伝えさせていただいて、ケアマネジャーの皆さんにもご協力いただくこと等も考えている。

A委員：前回7期の認定者向けアンケートの回答率はどれくらいか。

事務局：要介護・要支援認定者及び事業者向けアンケートのうち、認定者向けに行ったアンケートの回答率は48.6パーセント、健康と暮らしの調査の回答率は76.3パーセントであった。

事務局：議題(3) その他の説明

議題終了